

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
薬理学		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
稲垣 昌博	教員控室	kango	Teamsで対応		
授業の目的・概要	薬物治療を理解するため、薬物の体内動態を考えて薬物と生体の相互作用を学び、薬物の主作用・副作用を理解する。更に、薬物の安全性や取扱いについても理解を深める。一部の内容は課題学習を通して理解し、解答と解説によりフィードバックを行うとともに、Microsoft Teamsにより質問を受けるとともに、必要に応じてディスカッションを学生全員で行う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	病態や薬効を自分自身でイメージして自分の言葉で表現する習慣を身に付けてほしい。暗記に頼るのではなく、理解(納得)して記憶に留めるようにトレーニングすること。				
教科書	系統看護学講座「薬理学」疾病の成り立ちと回復と促進3 /著:吉岡充弘 他 /医学書院/2022				
参考書	人体の構造と機能(第4版) /著:内田さえ 他 /医歯薬出版(1年次に使用したもの)				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	薬物の代謝について理解し説明できる。	NS(1)(4)			
②	薬物の作用と作用メカニズムを理解し説明できる。	NS(1)(4)			
③	薬物の安全性や取扱いについて理解し説明できる。	NS(1)(4)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	薬理学総論①:薬物の作用機序,相互作用,副作用	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)①②と一緒に提示	1	
2	薬理学総論②:薬物動態(ADME),用量	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)①②と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1	
3	抗感染症薬③:抗生剤、抗菌薬、抗ウイルス薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)③④と一緒に提示	1	
4	抗がん薬④:各種抗がん剤,分子標的薬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)③④と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1	
5	免疫治療薬⑤:免疫抑制薬・増強薬、予防接種	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑤⑥と一緒に提示	1	
6	抗アレルギー・抗炎症薬⑥:抗ヒスタミン、ステロイド	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑤⑥と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1	
7	末梢神経⑦:精神神経系作用薬,筋弛緩薬,局所麻酔薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑦⑧と一緒に提示	1	
8	中枢神経⑧:全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑦⑧と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1	
9	中枢神経⑨:抗うつ薬、精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑨⑩と一緒に提示	1	
10	循環器系作用薬⑩:降圧薬,狭心症治療薬,強心薬、抗不整脈薬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑨⑩と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1	
11	循環器系作用薬⑩:利尿薬,血液凝固・線溶作用薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑩⑪と一緒に提示	1	

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

12	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器⑪に作用する薬物	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑪⑫と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1			
13	代謝性作用薬⑫:ホルモン,ビタミン	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑬⑭と一緒に提示	1			
14	漢方薬:漢方医学と有用性⑬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑬⑭と一緒に提示し、回答・提出(次回講義前)	1			
15	総復習・国試対策	講義	国試形式の問題をあらかじめ配布予定。一部を解説する。	1			
試							
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		79	21	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	21	0	0	0	71
	思考・推論・創造する力	29	0	0	0	0	29
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	授業の全範囲から出題する。解答は記述式を含み、解を得るための途中経過も評価する。				期末試験の解答と解説を配布し、フィードバックとする。
	②	✓					
	③	✓					
レポート	①	✓	偶数回の授業の終了約10~15分前に前回に提示した演習問題(レポート課題)に答えて、その次回の授業開始時に提出のこと。総括評価に関連する演習問題(レポート課題)は課題①~⑭の講義内容を2回分ずつまとめた7回とする。				解答は講義中に示していく。選択解答はまとめて配布する。
	②	✓					
	③	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
その他	①						
	②						
	③						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教 員 の 実 務 経 験	略歴:昭和大学薬学部大学院薬学研究科卒 博士(医学)、薬剤師、臨床検査技師 現在:昭和大学医学部医科薬理部門 客員教授						
実践的授業の内容							
そ の 他	・苦手な領域でも、自分でイメージできるようトレーニングしましょう。そのイメージを自分の言葉で表現して、記憶に残るように頑張りましょう。 今回はすべて対面で授業を行う予定です。時間があるときは、授業終了約10~15分前に演習問題(レポート課題)を提示して、その日の授業のまとめを行う予定です。時間に余裕がない場合は自宅学習とし、次回の講義開始前に提出すること。						